郷土史 ていね

第 104 号
平成 28 年 8 月 10日
手稲郷土史研究会会報

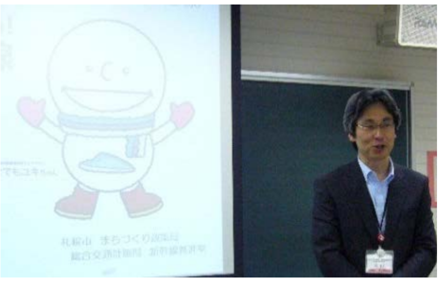
平成28年 7 月 13 日(水)定例会講演要旨

札幌市出前講座

つなが! ひろがる! 北海道新幹線

札幌市まちづくり政策局総合交通計画部

新幹線推進室課長　木村　顕一郎様



ただいま紹介をいただきました新幹線推進室の木村です。推進室では４人のスタッフが首都圏や東北方面に出向き北海道新幹線をよりよく知っていただき新幹線を利用して札幌まで来ていただくようお願いしています。さらに市民の皆様には啓発活動を通して、新幹線の開業を盛り上げていただきたく活動を展開しています。

青函トンネル(約 54km)調査着工から、およそ 52 年後の今年 3 月 26 日、ついに北海道新幹線は津軽海峡を抜けて新函館北斗まで開業ました。このあと札幌までの開業となる目安は 15 年後の平成 42 年とされ、着工から 57 年の歳月をかけた工事が始まっています

新幹線は昭和 39 年、東京オリンピック開催の年に東海道新幹線(東京～新大阪)が開業しました。主な区間を「列車が時速 200 ㎞/ｈ以上で走行できる幹線鉄道」と定義されています。北海道新幹線は 260 ㎞/h(在来線は上限 140 ㎞/h)で走行しています。現在国内総延長は 2,765 ㎞が開業しており、建設中は 403 ㎞となります。北海道新幹線は新青森～新函館北斗(149 ㎞)～札幌(約 211 ㎞) を結ぶ約 360 ㎞の高速鉄道です。

新函館北斗～札幌間は全長の 3/4 がトンネルで 19 ヶ所中 13 ヶ所が既に着手されていて、工期を短縮する為約 5 ㎞ごとに分割して掘削工事が進められています（手稲トンネル約 18 ㎞未着工） 高架橋は幅 12m あり(ＪＲ琴似～札幌間をイメージ)、雪対策も図られています。

北海道新幹線はH5 系、(「H」は、ＪＲ北海道（Hokkaido）の頭文字）といい、10 両編成（全長約 250m)、座席は 5 列が 8 両、4 列が 1 両、3 列が 1 両の 731 席(特急スーパー北斗は 345 席)で東京～札幌の所要時間は約 5 時間(在来特急列車で約 9 時間)を予定しています。

札幌市内のルートについては西宮の沢あたりか

ら追分通りを越えてＪＲ発寒駅で在来線と併走して札幌駅に入る計画です。

札幌市域内の事業費は 2,100 億円と試算されており、国の負担が 2/3(1,400 億円)、残り 1/3（700 億円）は地方負担(北海道 350 億円、札幌市 350 億円)とされています。

今後、札幌市内の整備における課題は人口密集地域での用地の確保などから地上ルートと地下ルートが比較検討されるでしょう。今一つは札幌駅の発着ホームが決まっていません、札幌市としては利用者の利便性を重視した「いい駅だね」と云われるよう要望していきたいと思っています。今後地元手稲の皆さんの関心の高い手稲トンネルの残土処理は検討委員会を設置することになります。

さらに札幌市としては情報発信(仕事･暮らし･観光)とＰＲ活動をおこない(イベント会場や小学校)、人々の想いを集め、発信しながら札幌駅までの開業予定を少しでも早められるよう期待しています。「これからの 15 年は長いようですが、過ぎた 15 年は短いのではないでしょうか」とパワーポイントを使ってのご丁寧な講演をいただきました。　(文責：佐々木)

部会報告

馬鉄研究会報告

７月９日１３時３０分より乙黒会員宅にて第一の研究会を開催しました。

決めたこと

1. 各人の研究テーマ
   - 谷川会員−手稲石狩道路の変遷
   - 乙黒会員−馬社会の繁栄
   - 沖田会員−事業参画者の研究
2. **石狩町との共同研究を提案してみたい**
3. **研究成果発表−演題(実録・軽石軌道物語)にして両町民に見ていただく**
4. **第二回例会−８月３日(水)１３時３０分**
   「めりめろ」手稲本町１条３丁目メディカルスクェア手稲２階にて

追記

尚、当会の釣本さんが石狩郷土研究会の理事でもあり、石狩との橋渡しをお願いしたところご快諾くださり、さっそく石狩の例会に提案して頂くことになりました.　(文責：沖田)

手稲郷土史研究会「**新川及び運河研究会**」発足にあたって

1. **研究会の目的**

来年は新川が開削されて 130 年を迎える。人工河川でありながら地域と調和し自然環境にも恵まれ、流域に住む者にとって癒しの空間となっている。

この川の持つ歴史的な意味を知ることは、明治人が抱いた北海道づくりの情熱や苦闘を知ることでもある。また、新川流域は古代から人々が暮らした痕跡を残し、数々の遺跡群が発見されている。

研究会では、新川開削 130 年を機に流域を含めあらたな視点から再考し、歴史を掘り起こし関係する人達とも連携し、この川の持つ可能性を探ることを目的に活動をすすめていくこととする。

２.研究内容

◎新川開削 130 年を記念したイベントの計画(平田舟の再現)
◎消えた歴史の再考と復活性を探る
◎新川河口一帯の環境保護と海浜公園化の可能性を探る
◎新たな観光としての運河の可能性を探る
◎新川流域を楽しくする会の結成（流域の個人・団体との連携）

3. 部会の進め方

(1)　定例会 必要の都度開催（月 1 回程度）
(2)　メンバーとの役割分担

渡部孝次	（ 部会長 ）	研究会の運営、海浜公園化　楽しくする会
村元健治	（ 部会代 ）	新川河口の環境保護と河川再興　の可能性
條野雄一	（ 副部長 ）	新川流域の歴史的遺産
半澤節子	（ 副部長 ）	研究資料の調査と収集
釣本峰雄	（ 副部長 ）	消えた歴史の再考と復活の可能性
※ 茂内義雄	（ 相談役 ）	相談役として研究会への指導と助言

4. 研究会スケジュール

7 月	各研究課題と役割分担
9 月	中間報告
10 月	新川 130 年に向けた計画
11 月	新川流域を楽しくする会結成
2 月	郷土史研究会定例会成果報告
8 月	130 年記念イベント（新川上流から河口間平舟で往復）

※ 研究会への参加は、会員以外を含め興味のある方は、いつでも参加を歓迎します。また、新川流域に係わる文献や写真等をお持ちの方は、ぜひ本研究会にご協力をお願いします。

（文責：渡部孝次）

文芸サークル

札幌中央寺での座禅体験記

新発寒在住　小田　伸二

当研究会の分科会、読書会サークル「文芸サークル」はいつの間にか、年中行事として「ビデオ鑑賞会」、「見学会」が年間の研修スタイル化しました。今年の見学会は「座禅体験」をすることになりましたが、これは会の発足当初に取り上げた研究テーマの有島武郎が札幌中央寺で参禅したということを目にしたことに端を発します。

7 月 27 日は 9 時 45 分に集合して、12 時まで、札幌中央寺で下記の座禅体験、その後場所

を移して「懇親会」を行い、解散したのは2時半頃でした。

座禅体験は10時10分から11時30分まで、実際の参禅会の全工程を濃縮したプログラムでご指導いただきました。

入堂→座禅註1　→　軽行（きんひん）→(「開軽偈」詠唱)法話

→「普勧座禅儀」詠唱　→　作務註2その後、別室で茶話会

さて、中央寺では毎週日曜日に参禅会をおこなっております。私は数年この参禅会に通ったことがありますが、今回の体験で新しい発見もありましたので、その経験も交えて見学会の感想を書かせていただきます

私は当初、註1のみを念頭に企画を想定しておりました。ところが、上記のように全工程をプログラミングしてくださいました。ご案内くださった渡辺氏は「この一連の実践を座禅」という」と言われました。私達は一連の流れの註1の一部をとって「座禅」と言うのであるならば、別の一部をとって「座禅」と言っても良いのではないか?　その一部とは、例えば註2の「作務」(掃除)です。「作務」の中身は私達の日頃の生活の中にある作業です。『無意識に行っている日常の作業の中にちょっとした意識をむけることができれば、それ禅的な生活になる』と渡辺氏は言ったのではないかと、私は勝手な解釈をしました。他も同様です。軽行は散歩の祈りに、詠唱は声を出して本を読む朗読によって健康維持に、などと置き換えて考えても良いのではないかと……。そのような置き換え思考によって宗教感覚にとらわれない座禅活用ができるのではないかと思いました。

「座禅」のことに限らず、物事の本質を理解するということは難しいものです。特に反省しなければならないことは、本を読んでも、ドラマをみても、自分に都合良く解釈して解ったつもりでいることです。しかし、思考をかさねることによって少しずつ誤解を修正し真実に近づけるような気がするのも事実です。例えば、座禅の仕方を習うときによく使われる言葉に「何も考えないように」と言われます。この言葉の額面にとらわれてどれほど回り道をしたことか?　その呪縛から解放されたのが2年前でした。また、「開軽偈」の意味です。

今回の見学会においても詠唱しましたが、仏教ではどの宗派でもこの偈を詠唱しますので、禅宗の檀家に育った私にとっては何百回(千回を超えいるかも知りません)聞いたことでしょう。しかし、その意味をなんとなく分かったような気分になったのは、数年前でした。その他にも、今回、聞いた言葉の「只管打座」「諸悪莫作」「不思量」「非思量」なども、これを機会に吟味してみたいところです。

今回の見学会を通して、いろいろ考えるところがありました。この見学会が、最後の例会となりますが、締めくくりの集まりに相応しいものとなりました。私達のために、貴重な時間を割いて懇切にご指導くださいました渡辺観寿氏はじめ参禅会の方々に衷心より御礼申し上げます

2012年2月に野村氏の助言をいただいて発足し、4年半続けてきた「文芸サークル」は幕を閉じることになりました。毎回、絶えることない話題が飛び交い、時間切れを惜しんだことも度々でした。本当に楽しいサークル活動でした。ご協力いただいた皆様に感謝いたします。

次回の予定

9月14日（水）
北海道150年物語
エネルギーコンサルタント
講師　越智文雄様
会場：区民センター3Ｆ